

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)	良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・今月も北陸新幹線効果が継続している。今月は金沢のみならず能登や加賀にも効果が見えてきている。特に月初のゴールデンウィークは日並びも良かったせいか、今まで見たことのない観光客の入込があった。観光地のすし店、食堂などは早朝から夕方まで行列が絶えず、おそらく過去最高の売上となったであろう。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・北陸新幹線開業による来客数の伸びは予想以上で、例年の120%近く集客が継続している。団体で新幹線に乗り、駅からは大型バスで観光するプランなど、団体での利用は例年の約2倍である。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比総売上121%、宿泊人数119%、宿泊単価102%であった。15名以上の団体が前年比110%であるのに対して、1～14名のグループが133%となっている。個人客が特に増加しているのは北陸新幹線開業によるものと考えられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊が前年に対し60%増と順調に伸びている。北陸新幹線利用だけでなく、車、バス利用共に伸びている。宴会は、ようやく件数、人数共に伸びてきたが、単価がなかなか上がらず、消費税増税分の転嫁が難しく値上げしづらい。レストランも同様に推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークは北陸新幹線効果があり、また天候にも恵まれたことから、前年よりはるかに入出が多かった。また、全国規模の総会や会合があり、夜の街も人出があり忙しかった。週末を中心に、まだまだ観光客などがくると思う。
やや良く なっている		一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・北陸新幹線効果で、観光客、県外客、外国人客は増えているが、デイリー客が減っているように思う。今後、どれほど伸びていくかは未知数である。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・株値上昇により、富裕層による呉服、宝飾、インポートウォッチ、美術品の購買意欲がおう盛である。8月末発売予定の「プレミアム付商品券」効果も期待できる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・北陸新幹線開業後、初のゴールデンウィークとなり、旅行関連のバッグやグッズの売上が前年比3割増という推移である。それに関連して、トラベルウェアなどカジュアル系のファッションを新たに買換える動きも活発化している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・5月はゴールデンウィークに入り、旅行客が増えた。トレンド感がある衣料品は前年に届かなかったが、食品、雑貨、化粧品などが売上を伸ばしていることから、全体では良かった。良いところと悪いところの差が激しいように感じた。
		スーパー（店長）	単価の動き	・5月のゴールデンウィークを皮切りに、来客数、客単価共に上向き傾向になっている。消費税増税の反動も落ち着き、通常の買物パターンに戻ってきているように思う。ただ、野菜などの相場高も要因のひとつと考えている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が高く、エアコンなどの高単価商品の販売が順調になっている。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・昨年の消費税増税の反動も考慮されるが、集客、売上共に回復の兆しが見えてきている。単価も向上しており、必要な物にはお金をかける客が増えたように感じる。
		住関連専門店（店員）	単価の動き	・ボリュームゾーンである中価格帯の商品はコンスタントな動きが見られ、それに加え、高価格帯商品の動向も上向きになっている。良いものをしっかりと選ぶケースが増えてきているように感じる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	販売量の動き	・4月同様に消費税増税の影響を受けていた消耗品、洗剤、化粧品、食料品を中心に売上高は前年を上回っている。ゴールデンウィークから日中の気温も上昇し、初夏物衣料や寝具類も順調だ。野菜、果実相場は相変わらず高値が続くが、上手に特売品を買い求めている生活コストは抑えているように感じる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・衣料品を中心に販売量が昨年を上回った。また、靴とカバンの販売量が好調で、ゴールデンウィークの行楽需要が多いと見られる。

一般レストラン (統括)	来客数の動き	・北陸新幹線効果が予測以上で来客数が減少する気配がみられない。また気温が高く、天候も良いため夏物商品の販売数にも好影響である。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・北陸新幹線開業以来、新幹線を利用したツアーやインバウンドの客で前年比20%ほど宿泊人数が増えている。
旅行代理店(所長)	お客様の様子	・北陸新幹線開業により旅行需要が増えている。
通信会社(役員)	販売量の動き	・新年度も2か月目となり、契約の獲得数は少しずつ上昇傾向にある。昨年の消費税増税後に続いた抑制傾向がようやく変化しつつあるのではないかと見ている。
通信会社(役員)	販売量の動き	・商戦期であった3～4月を過ぎても、継続して放送、通信サービス共に新規契約や増設の契約数が好調に推移している。
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・北陸新幹線の開業効果や、インバウンド客の増加の影響により、国内は個人旅行を中心に、海外は団体個人共に増加傾向にある。国内の団体旅行客の動きはやや鈍い状況にあるが、全体としてはやや良くなっている状況である。
美容室(経営者)	販売量の動き	・今月に入ってから商品の動きが良くなっている。結果として客単価も上がってきている。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・展示場来場者数は各地区とも順調に積み上げており、情報量は予定通りほぼ確保できている。
住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・土地の問い合わせが増えて、他社が客付けする件数が増えている。価格帯の低いメーカーばかりでなく、高いメーカーの客付け数が増えている。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・個人住宅の販売については、一時期の厳しい状況から多少の改善が見られた。しかし厳しかった前年から、少しは上向いた程度であり、まだまだ弱い。また、好調だったリフォームに少し陰りが見られる。今後も積極的にイベントなどで仕掛けていく。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・土地の動きも出てきて、住宅の工事も増えてきている。
変わらない	商店街(代表者)	・ゴールデンウィークは天候にも恵まれ街中も結構な人出であったが、レジの音は響かず客の財布のひもの固さを感じた。
	商店街(代表者)	・北陸新幹線開業で当地区でも観光客は多くなっており、一部の飲食店では売上が増加しているようだ。しかし、当商店街は物販が主体であり、観光客増加の影響はほとんどない。消費者の動向はあまり変わりなく、売上は例年通りの状況である。
	一般小売店[事務用品](店員)	・売上額は昨年より微増ではあるが、利益は微減である。
	スーパー(総務担当)	・5月は晴天が続き気温も例年になく上昇したため、衣料品や住関連商品の売上が増加している。しかし食品部門は1点単価の伸びで売上高を維持している状態である。
	スーパー(総務担当)	・商品の値上げが続き、昨年より1点単価はおおむね上がるなか、1人当たりの買上点数もおおむね昨年を超えており、儉約ムードは感じられない状況が続いている。
	コンビニ(経営者)	・イベントに依存する立地の店としては、土曜日や日曜日の天候に恵まれたことから、ウィークエンドの売上は若干の伸びを見せている。しかし、ウィークデーの昼の数字が全く変わっておらず、悩ましいところである。
	コンビニ(店長)	・特別良くなることもなく、やや前年を割り込む数値で98～100%で推移している。今まで10%割れ程度だったので、先月同様に下げ止まったと感じている。1年前と比べると間違いなく下がっているのだが、ここ半年の流れでは変わらないと感じている。
	コンビニ(店舗管理)	・好天に恵まれたわりに、来客数は前年並みであった。
	衣料品専門店(経営者)	・ガソリン価格の低下は個人消費の背中を若干押しはいるが、値上がり転じたときが心配である。
	衣料品専門店(経営者)	・衣料品に関しては北陸新幹線開業効果もなく、必要なものを必要な時に買うという消費者心理に変わりはない。

	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・増収増益で配当を増やしている会社の会長や社長の話でも、景気は良くなっていないとの話である。また、当地の代表的なゴルフ場社長の話では、土曜日、日曜日にはそこそこ客が来るが、60～70代の人である。平日は少しも良くなっておらず、若い人はゴルフをしない。景気が良くなっていないという話である。	
	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・前年の消費税増税後の反動減からもう少し回復しても良いと思うのだが、受注、販売共に計画に達していない状態である。	
	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・不思議なもので、昔はあまり良くないとか悪いとか思っていたことが、長いこと続いてくると変わらないという答えが出てきてしまう。恐ろしい感じがする。景気の悪いのに慣れすぎた感覚になっている自分が、大変怖いと思っている、今この頃である。	
	都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・宿泊部門は北陸新幹線の開業によるビジネス客と、香港や台湾からのインバウンドの増加により順調に推移している。ただ、レストランおよび宴会部門においては横ばい傾向にある。婚礼の減少に伴い、全体では横ばいで推移している。	
	通信会社(店舗 統括)	販売量の動き	・来客数、販売量共に上がった感じはしない。少ない来店客にいろいろな提案をしているが、大きな動きはみられない。	
	その他レジャー 施設(職員)	来客数の動き	・客から賃上げで余裕が出始めたというような話は全く聞こえず、節約志向、値引き期待の雰囲気が大勢を占めていて、入会が伸びてこない。同様の公共施設では、低利用料金の影響で利用者が増えている。	
やや悪くなっている	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・コンビニについては、競争がずっと続いている状態であり、来客数の微減が続いている。客単価は、値上げなどがあり上昇してこなければならぬのだが、去年並みかやや下回っているのが現状である。	
	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新型車が発表され少しずつ売れ始めたが、軽自動車の落ち込みが大きく結果的に販売量が増えない状況である。	
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・イベントなどで集客を期待しているが、新車、中古車共に売上に結びついていない。	
	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・5月の販売量は前年同月比59%である。2月の販売量は前年同月比73%であり、3か月前と比較して下向きである。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・北陸新幹線が開業し、4～5月に東京へ遊びに行き、東京で散財して小遣いがないという客の声が聞かれる。	
悪くなっている	スナック(経営者)	来客数の動き	・5月は連休もあり、前年同月比85%の売上で赤字すれすれといった感じである。北陸新幹線効果で観光地やすし屋などの食事処は忙しいと聞かすが、当店では逆に常連客が旅行に行きマイナスの結果となった。また、商店主からもやはり厳しい声が聞かれる。	
	通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・新商品も発売され月末に追い込みにつながる販売があると思ったが、検討の客が多く直接販売数につながらない。	
企業 動向 関連	良くなっている	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・1月はほとんど完成工事がなく売上は微々たるものであったが、4月は3月工期の大型工事の完成が多くあり、前年同月よりは落ちるが、大きな利益が上がった。
(北陸)	やや良くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・全体の受注状況は良くなっている。一部の輸入品について、当面は円安の影響で国内にシフトされていることから、受注状況がさらに良くなっているのではないかと思う。ただし、受注価格の問題は、まだ厳しいところがある。
		精密機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・国内の客先の状況が二極化しているのは間違いないが、総量的には今まで仕入を抑えていた大手チェーン店からの発注も回復の兆しを見せるなど、まだ強くないが若干増えてきている感触がある。
		金融業(融資担当)	取引先の様子	・北陸新幹線開業後、本格的な観光シーズンが到来し、観光客も目に見えて増え、街中の盛り上がりが見られる。
		金融業(融資担当)	受注価格や販売価格の動き	・3月決算の説明を受けていると、収支黒字で堅調である。株価も2万円台キープで、経営者の表情も明るい。
		不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者の情報では、少しずつ動いてきているという意見があった。

		司法書士	取引先の様子	・会社設立、休眠会社の復活、会社分割などの組織変更といった仕事が増加している。
変わらない		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・廉価版の商品、高付加価値品共に荷動きに変化はない。ただ、原材料の総平均価格がジワリジワリと上がってきている点が今後の不安材料である。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・婦人衣料などの国内市場が低迷しており、なかなか受注の確保が難しい。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・地域によっては工事発注量の減少傾向により、厳しい受注価格競争が再燃し始めている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・北陸新幹線の開業といったプラス材料はあるものの、北陸からの物量の動きは変化がないように感じられる。
やや悪くなっている		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・昨年に比べて米国受注量が減っている。
悪くなっている		-	-	-
雇用関連		-	-	-
(北陸)	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・弊紙の5月の求人広告の内容を見ていると、昨年と比べてパートやアルバイトが減り、一般求人や契約社員が増えている。これは3～4月から続いている傾向で、全体の求人広告数自体はそれほど大きな変化はないが、正社員ないしはそれに近い待遇での求人数が増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の新規求人は4110人であり、前年同月比3.0%増、前月比では1.7%増であった。北米ではサブプライム住宅ローン問題から回復傾向にあり、建設機械部品メーカーで受注が増加している。電子部品メーカーでは、東日本大震災で操業停止していた大手部品メーカーが再開し受注が増加した。企業からはそのような好調な声が聴かれた。
変わらない		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人件数、求職者数は大きく伸びていない。スキルなどでマッチング率が悪い。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・北陸新幹線開業に伴い、宿泊業、サービス業の求人は増加しているが、求職者数の登録者が減少傾向にある。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べても求人数があまり変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・5月の求人広告売上は、ほぼ前年並みである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の動きは依然として高水準で推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の事業所は良くなっているとの声も聞かれるが、原材料費や燃料費の高騰などにより、忙しいが利益がないという事業所の声も多いため、全体として変わらないと感じる。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は増えているが、それに対して求職者が減っているように感じる。紹介や派遣の応募者が少ない状態が続いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・引き続き求人数は微増である。
やや悪くなっている		-	-	-
悪くなっている		-	-	-